

# GLOBAL UNIVERSITY 「世界適塾」

総長 平野俊夫

## 目次

### 1. 大阪大学の経営戦略

### 2. 「適塾」から「世界適塾」へ ：学問による調和ある多様性の創造

### 3. 「世界適塾」構想 ：次世代教育プラットフォームの構築

# 大学の普遍的要素

## 多様性 Diversity

多様性の維持

教職員一人あたりの活動の最大化

大学の多様性

学部／部局の多様性

学問（研究・教育）の多様性

人の多様性

## 持続性 Sustainability

# 大学経営の要素

## 志

## 対話

如何にすれば教職員  
一人一人の活動を最大化出来るか！  
：個の活動最大化

## 戦術

## 恕 心

# 大阪大学 経営のビジョン

対話

- 志** : 2031年、創立100周年  
「世界適塾」として世界トップ10の大学に
- 理念** : 「大学は学問（研究・教育）の府である」  
学問による、グローバル社会における  
「調和ある多様性」の創造に貢献
- 戦略** : 大阪大学未来戦略(2012-2015)-22世紀に輝く-  
「世界適塾」構想
- 戦術** : 「世界トップ10」に向けた部局マネジメント  
及び人材育成・獲得支援策、  
スーパーグローバル大学創成支援事業など

恕の心

## 大学経営について ～「個」と「組織」の最大化～

### 多様な教育研究組織の「自主性」と「独自性」

物理学×化学×生物×材料科学

エネルギー問題

学生の多様化

安全保障



経済学×心理学→行動経済学

教育の質保証

既存の組織の枠を超えた柔軟かつ機動的な大学マネジメント  
既存の学問分野の枠を超えた教育・研究の創出と実践

(異分野融合・細分化)

社会の課題

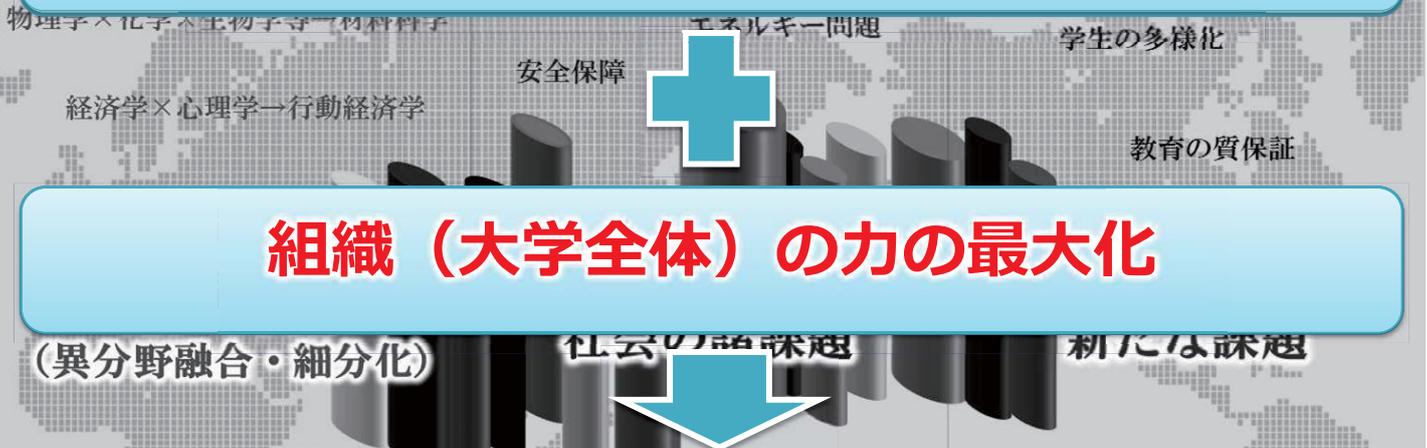
新たな課題



本部と部局の間に適度な緊張関係を築きつつ  
それを対立関係ではなく  
大学発展の駆動力（ドライビングフォース）に変換

# 大学経営について ～「個」と「組織」の最大化～

## 個（教職員、部局）の力の最大化



## 組織（大学全体）の力の最大化

本部と部局の間に適度な緊張関係を築きつつ  
調和ある多様性を  
大学発展の駆動力（ドライビングフォース）に変換

# 大阪大学の経営戦略 「大阪大学未来戦略」

2012年5月

## 大阪大学未来戦略

(2012-2015)

— 22世紀に輝く —



大阪大学未来戦略

(2012-2015)

— 22世紀に輝く —

[www.osaka-u.ac.jp](http://www.osaka-u.ac.jp)

### ① 未来戦略機構の創設

- ② 本質を究め未来を創造する研究
- ③ 世界に通用する人を育む教育
- ④ 世界が大阪大学を目指す国際戦略
- ⑤ 豊かな社会を生み出す産学連携
- ⑥ 大学と人と地域が交流する社学連携
- ⑦ 質と倫理を兼ね備えた大学病院
- ⑧ 教育と研究の基盤を支える大学運営

# 未来戦略機構の創設

## 学問の多様性

各教育研究組織が自主性と独自性を発揮し  
教育・研究のレベルアップに邁進



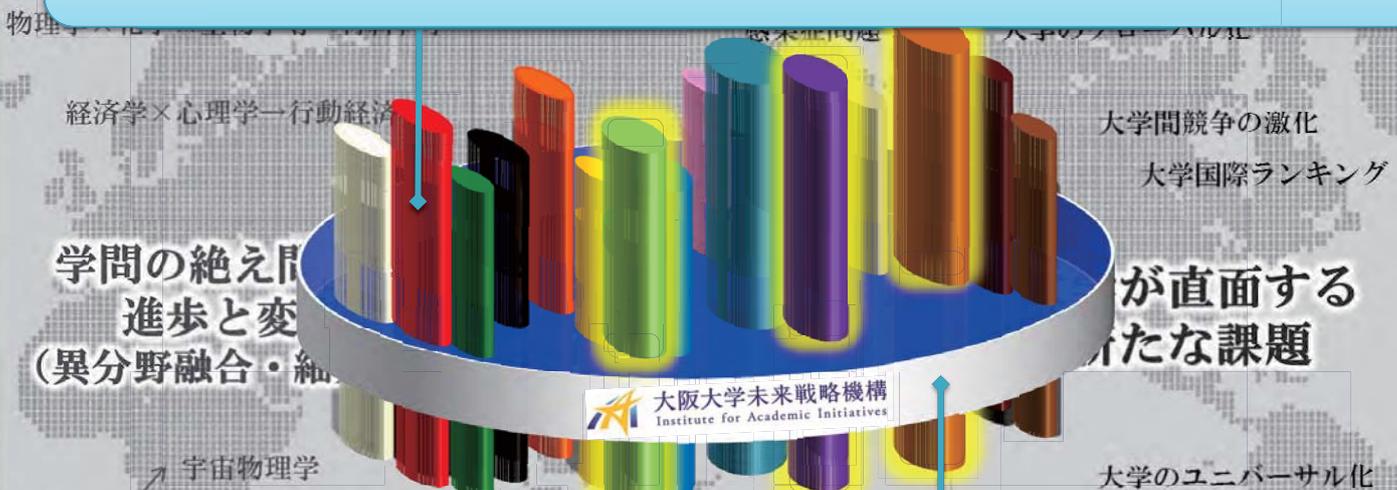
学問の絶え間  
進歩と変  
(異分野融合・細

が直面する  
新たな課題

**未来戦略機構**が大学全体の戦略的司令塔機能を担い  
部局横断的な教育・研究  
異分野融合領域のインキュベーションに取り組むことで  
**大学全体の力を最大化し、困難な課題に挑む**

# 未来戦略機構の創設

## 個（教職員、部局）の力の最大化



学問の絶え間  
進歩と変  
(異分野融合・細

が直面する  
新たな課題

**組織（大学全体）の力の最大化**

# 未来戦略機構 ～大学全体の戦略的司令塔～



世界トップレベルの  
学問分野の育成と創成

創薬基盤科学  
認知脳システム学  
光子科学・・・

グローバル人材の育成

博士課程教育  
リーディングプログラム 等

世界トップレベル  
研究拠点

免疫学フロンティア  
研究センター  
iFReC

大学が責任を持ってプログラムを運用し柔軟にトライ＆エラーを重ね、インキュベーション機能により新たな融合分野を育てる

研究型総合大学としての多様性を最大限に活かして異分野融合を推進し新しい学問領域を創成する

# 未来戦略機構 ～教育・研究推進部門～

## 教育・研究推進部門

大阪大学の強みを活かし、大学全体が取り組むべき戦略的課題に対応する部門を設置

- |      |   |      |   |
|------|---|------|---|
| 第1部門 | 超域イノベーション博士課程プログラム (H23年度～)<br>「超域イノベーション」を実現するための高度な専門性に支えられた知的体力と勇気を持つグローバルリーダーとなる博士人材の養成                             | 第6部門 | 創薬基盤科学研究部門 (H24年度～)<br>部局横断的な疾患関連の基礎研究、創薬に向けての基盤及び応用研究を推進し、大学発創薬を推進                                     |
| 第2部門 | 生体統御ネットワーク医学教育博士課程プログラム (H23年度～)<br>生命現象の包括的理解に基づき、種々の疾患の克服を実現できる、リーダーシップを揮うことができる若手研究者リーダーの養成                          | 第7部門 | 認知脳システム学研究部門 (H24年度～)<br>人間指向のロボット研究を中心に、認知脳システム学の確立を目指し、理工学系・認知科学系・医学生命機能系の研究者が連携する世界最先端の学際領域研究を組織的に推進 |
| 第3部門 | インタラクティブ物質科学・カデットプログラム (H24年度～)<br>将来の物質科学研究・事業を牽引するリーダーとして産・官・学のいずれでも活躍できる博士人材の養成                                      | 第8部門 | 光子科学研究部門 (H25年度～)<br>光子科学の先進的な技術開発の推進及び分野融合や境界領域を開拓し、国内外の教育研究機関と連携を図り我が国の要となる国際拠点を目指す                   |
| 第4部門 | ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム (H24年度～)<br>人と人の関係のダイナミクスを扱うヒューマンウェアの発展を主導し、情報科学、生命科学、認知・脳科学の諸分野を融合することで将来の融合領域の開拓を牽引するリーダーを育成 | 第9部門 | グローバルヒストリー研究部門 (H26年度～)<br>世界史研究に関係した研究者が部局横断的に結集し、アジア太平洋地域における研究・教育のハブとして、大阪からの国際的な情報発信と人材交流を推進        |
| 第5部門 | 未来共生イノベーター博士課程プログラム (H24年度～)<br>共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できるダイナミックな知識・技能・態度・行動力を持つ「未来共生イノベーター」となるべき人材の養成              |      |   |

# 大学運営の基本 ～調和ある多様性の確立～

- 1) 多様性と持続性
- 2) 個（部局）の力の最大化
- 3) 組織（大学全体）の力の最大化
- 4) 部局（個）と本部の間に適度の緊張関係を構築
- 5) 緊張関係を対立ではなく駆動力に変換
- 6) 志、理念、戦略、戦術
- 7) 対話と恕の心

## 目次

### 1. 大阪大学の経営戦略

### 2. 「適塾」から「世界適塾」へ ：学問による調和ある多様性の創造

### 3. 「世界適塾」構想 ：次世代教育プラットフォームの構築

# 大阪大学の原点：適塾 established in 1838

適塾には、日本全国から意欲溢れる多くの若者が集い、互いに切磋琢磨し学び



緒方洪庵



日本の新時代を切り開いた優れた人材が巣立っていった

## 「適塾」から「世界適塾」へ

学問による「調和ある多様性の創造」

世界中から優れた学生、研究者が集い互いに切磋琢磨する



大阪大学で学び、世界へ羽ばたく「調和ある多様性」を創造する  
Global University 「世界適塾」へ

学問による「調和ある多様性の創造」

言語・人・文化・宗教などの**多様性**

イノベーションの源泉であり、心豊かな人類の発展に不可欠

しかし、時には様々な障壁やコンフリクトの要因となる



OSAKA UNIVERSITY

「学問」という人類共通言語を介した人の交流により

グローバル社会に「調和ある多様性」をもたらす

『21世紀における大学の新たな役割』

適塾の精神

大阪大学の現在の強み

大阪大学未来戦略

22世紀に輝く

- 1 世界トップクラスの競争力を持つ  
基礎研究の実績：免疫学
- 2 未来戦略機構：異分野統合研究：認知脳システム
- 3 学際融合型・異分野横断の大学院教育  
副専攻・副プログラム
- 4 博士課程教育リーディングプログラム5プログラム
- 5 外国語学部(24言語)教育と  
国内随一の日本語教育環境
- 6 医療と先端研究の融合、先導的な産学連携
- 7 大学間協定、海外拠点、国際ジョイントラボ
- 8 基盤となる柔軟な人事・給与システム

- 1 未来戦略機構の創設
- 2 本質を究め未来を創造する研究
- 3 世界に通用する人を育む教育
- 4 世界が大阪大学を目指す国際戦略
- 5 豊かな社会を生み出す産学連携
- 6 大学と人と地域が交流する社会学連携
- 7 質と倫理を兼ね備えた大学病院
- 8 教育と研究の基盤を支える大学運営

INSTITUTIONAL RANKINGS				PUBLISHING INDEX	
QS* (World Ranking) 2014	ARWU, Shanghai Jiao Tong University** (World Ranking) 2014	THE***		Thomson Reuters ESI**** Citation Index 2013	Nature Publishing Index 2013
		World Ranking 2014	World Reputation Rankings 2014		
<b>55 (3)</b>	<b>78 (3)</b>	<b>157 (4)</b>	<b>50 (3)</b>	<b>47 (3)</b>	<b>41 (3)</b>

## World Rankings in Thomson Reuters Journal Citation by Disciplines in September 2013

Fields	Rank	Fields	Rank	Fields	Rank
免疫学	7 (1)	臨床医学	105 (2)	宇宙科学	ランク外 (139以下)
化学	16 (3)	神経科学・行動学	130 (3)	経済学・経営学	ランク外 (235以下)
材料科学	20 (2)	工学	138 (6)	地球科学	ランク外 (525以下)
物理学	31 (4)	薬理学・毒物学	150 (7)	精神医学・心理学	ランク外 (477以下)
生物学・生化学	33 (3)	計算機科学	198 (4)	環境学・生態学	ランク外 (670以下)
分子生物学・遺伝学	43 (3)	数学	208 (7)	農業科学	ランク外 (665以下)
複合分野	44 (2)	植物学・動物学	354 (13)		
微生物学	64 (2)	社会科学	956 (6)		

順位は世界の論文被引用総数  
上位1%内の機関のみ公表のため  
順位不明

\* QS World University Rankings  
\*\* Academic Ranking of World Universities  
\*\*\* Times Higher Education World University Rankings  
\*\*\*\* The ranking is based on the Thomson Reuters Journal Citation Index  
※ ( ) の数字は、国内順位

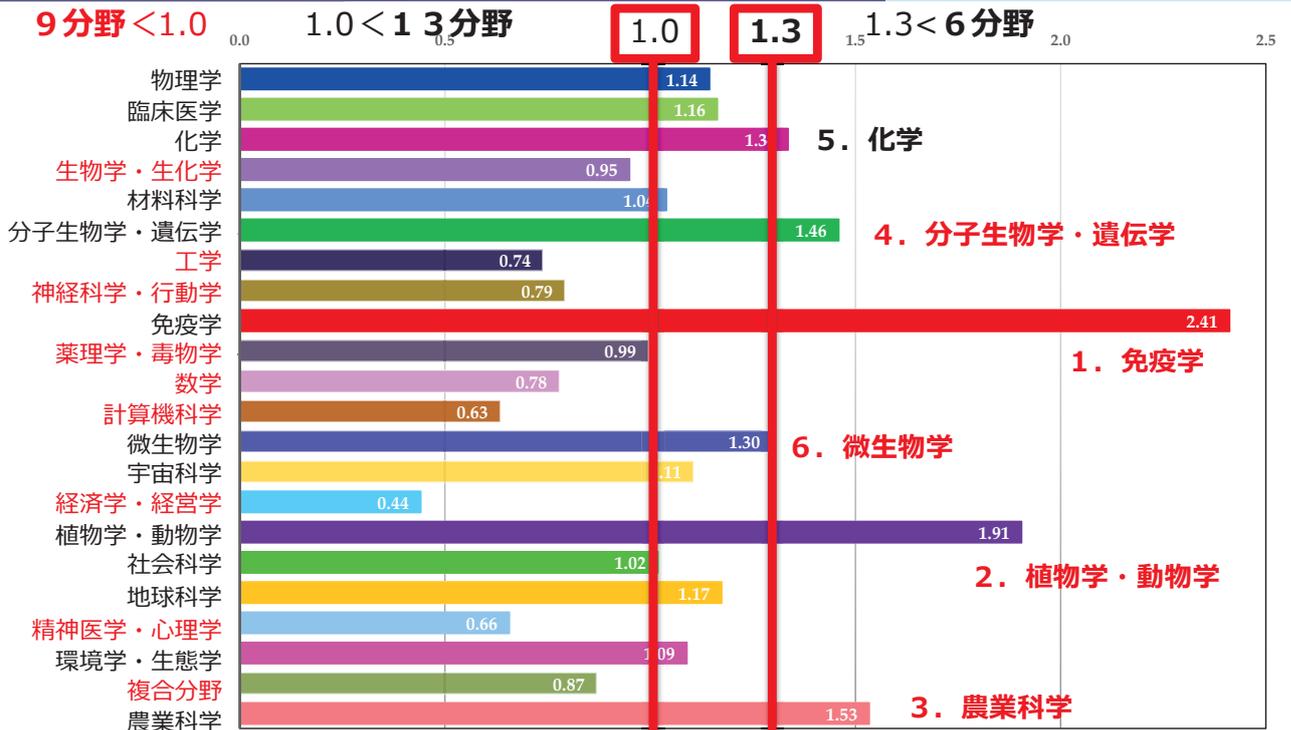
現在 22 研究領域のうち 13 領域が 200 位以内  
他の 9 領域が 200 位以下。

## 大阪大学に対する評価：相対被引用インパクト (最近の5年間)

出典：トムソン・ロイター社

1 論文当たりの被引用数を  
世界全体の平均で割ったもの：  
1.0が世界平均

上から、  
論文数が多い分野の順



1 論文あたりの被引用数の世界平均との比

	大阪大学	東京大学	理化学研究所	京都大学	産業技術総合研究所	東北大学	日本全体
生物学・生化学	2			2			6
化学	2			1	1		4
臨床医学	3						4
工学					2		3
地球科学							2
免疫学	6	5	1	2			19
材料科学		2				1	8
数学							1
微生物学		1					1
分子生物学・遺伝学							1
薬理学・毒物学		1	1				5
物理学	1	2	3	2	1	2	14
植物学・動物学	1	2	8	1	1	1	25
宇宙科学		4					5
<b>合計</b>	<b>15</b>	<b>17</b>	<b>13</b>	<b>8</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>98</b>

【参考】平成25年度実績	大阪大学	東京大学	理化学研究所	京都大学	産業技術総合研究所	東北大学
運営費交付金	438億円	783億円	553億円	520億円	582億円	446億円
教員数(人)	2,550	3,836	3,034	2,777	2,001	3,116
職員数(人)	2,391	3,835	460	2,655	663	3,085

※1 Highly Cited Researcherとは2002~2012年の11年間にHighly Cited Papers (Top1%論文) を数多く発表した研究者

※2 大阪大学では番良静男教授が3分野(生物学・生化学、臨床医学、免疫学)で選出されており延べ15人(実質13人)

※3 免疫学分野では、元大阪大学の河合太郎奈良先端大准教授、竹内理京都大教授、植松智東京大特任教授、星野克明香川大教授、石井健医薬基盤研究所プロジェクトリーダーが選出されている

※4 Thomson Reuters 社 Worlds Most Influential Scientific Minds 2014より作成

## 大阪大学の志

2031年に創立100周年

大阪大学は

「適塾」から「世界適塾」へ

世界トップ10の大学になる!!

物事の本質を見極め、調和ある多様性を創造

# 創立100周年「世界適塾」構想会議

## 趣旨：

大阪大学が、2031年に迎える創立100周年、そして22世紀にも輝き続けるため  
将来のあるべき姿を検討する

### ■ 総会（総長）

第1回：2014年7月16日開催  
第2回：2015年1月21日開催予定

構成員：総長、理事、副学長、総長補佐、理事補佐、経営協議会学内委員

### 【常設部会】

- ◆ 基本構想WG（総長）
- ◆ キャンパス構想WG（恵比須理事）
- ◆ 病院構想WG（金倉副学長）
- ◆ 創立100周年ゆめ募金WG（大竹理事）
- ◆ 第3期中期目標・計画WG（恵比須理事）
- ⋮
- ◆ 必要に応じて随時設置

## 目次

### 1. 大阪大学の経営戦略

### 2. 「適塾」から「世界適塾」へ ：学問による調和ある多様性の創造

### 3. 「世界適塾」構想 ：次世代教育プラットフォームの構築

# 「世界適塾構想」推進のための 4つの改革

## 1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究

## 2. 次世代型人材育成に向けた教育プログラムの構築

## 3. 国際標準の教育の保証、学習環境の向上

## 4. 大学改革の推進体制の強化

# 1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究



### 1. 留学生受入れ・海外派遣の増加

平成32年までに倍増（派遣：4→8%、受入れ：8→15%（内 学部生 4→10% 大学院生15→25%））

### 2. グローバルビレッジの形成

### 3. 大阪大学における、カリフォルニア大学のオフィスの誘致（平成26年12月開所）

### 4. 国際ジョイントラボの大幅増加（平成35年度までに現在の22を100へ）

### 5. 海外4拠点の機能強化「点から面へ」「都市から地域へ」

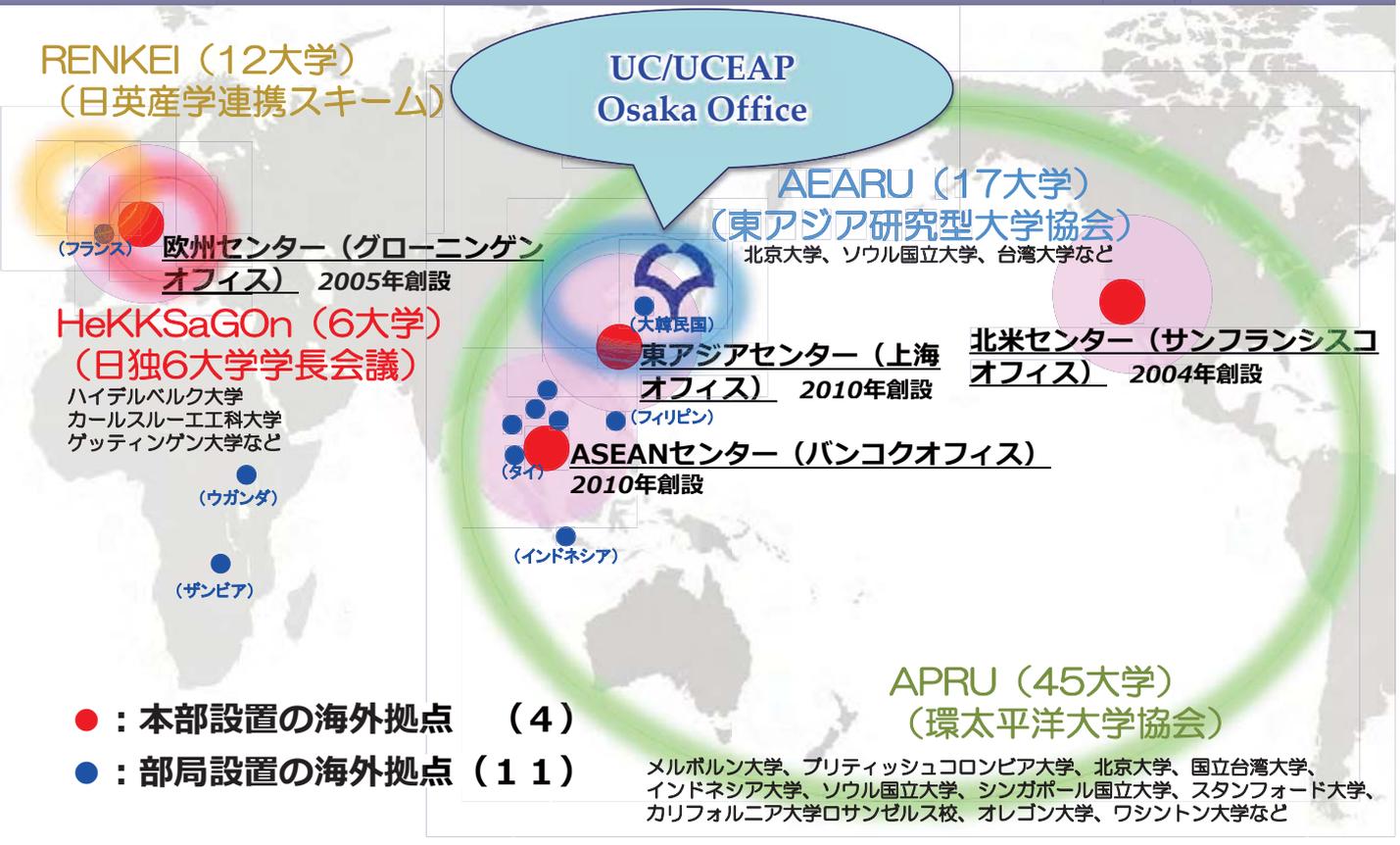
# グローバル・ビレッジの形成

学生の生活環境がグローバルに変貌し、  
人と人のインタラクションが生まれる



- ▶ 外国人と日本人がともに生活する学生・教職員寮の整備
- ▶ 民間収益施設用地を貸付し、大学が地代収入を活用  
⇒学寮・教職員宿舍の受益者負担を軽減

## 大阪大学<世界適塾>の国際戦略 ～「海外拠点」と「海外ネットワーク」～



# APRU年次学長会議を大阪で開催 (2015年6月28-29日)

## ◆環太平洋大学協会 (APRU) とは

環太平洋圏の主要大学間の相互交流を深めることにより、重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年設立。※大阪大学は1997年に加盟し、2013年7月から平野総長が日本代表理事就任

- 大阪大学の研究力、教育力をアピールし、**本学のプレゼンスを高める**
- 海外に大阪をアピールするとともに、**参加者を大阪に誘致**

2015年6月28~30日  
本学がホスト校として  
大阪で開催



APRU  
Association of Pacific Rim Universities  
(環太平洋大学協会)

メルボルン大学、プリティッシュコロンビア大学、北京大学、国立台湾大学、インドネシア大学、ソウル国立大学、シンガポール国立大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、オレゴン大学、ワシントン大学など45大学

1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究

## カリフォルニア大学オフィスの誘致

- ◆ カリフォルニア大学との学生・研究者交流の西日本における拠点として**グローバルキャンパスを目指す**  
→平成26年12月開所



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



UNIVERSITY  
OF  
CALIFORNIA

### カリフォルニア大学

- ・バークレー校
- ・デービス校
- ・アーバイン校
- ・ロサンゼルス校
- ・マーセド校
- ・リバーサイド校
- ・サンディエゴ校
- ・サンフランシスコ校
- ・サンタバーバラ校
- ・サンタクルーズ校

## 大阪大学とカリフォルニア大学の交流実績

- **交換留学**：派遣/11名 受入/17名 ※本学の最大規模の交流協定校
- **フロンティア・ラボ**：理工系の「研究室」で指導教員のもと先端的テーマの研究を実施（最長1年間）（13名受入）
- **ショートステイ・ショートビジット**：毎年、30名程度を派遣20名程度を受入
- **JShIP**：日本語学習者のための短期プログラム（23名受入）

※東日本はICUに設置済

# 国際ジョイントラボの大幅増加

最先端の研究を展開する **世界トップレベルの外国人研究者**を  
本学に招へいし、本学の研究者と共同研究を実施



平成35年までに現在の22拠点を

## 100拠点到大幅増加

•Ersta Sköndal University College  
•Université Paris Ouest  
•University of Oxford

アフリカ  
•The Moroccan Foundation for Science Innovation and Research

● : 平成25年度採択  
● : 平成26年度採択

•California State University  
•Fordham University  
•University of Washington  
•University of Chicago  
•Baylor College of Medicine

現在、**22機関（13カ国）**との国際ジョイントラボが  
既に大阪大学で活動しています。

(H25年度：27件応募⇒15件採択 H26年度：35件応募⇒7件採択)

## 「世界適塾構想」推進のための 4つの改革

1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究

2. 次世代型人材育成に向けた教育プログラムの構築

3. 国際標準の教育の保証、学習環境の向上

4. 大学改革の推進体制の強化

## 「知の統合学修体系の構築」

様々な要因が複雑に絡み合っている地球規模の社会的問題を解決するとともに、最先端の科学や技術の発展を推進し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する、グローバル社会のトップリーダー、トップレベルの研究者、高度専門技術者を育成する。

### Knowledge 体系的学修スタイル

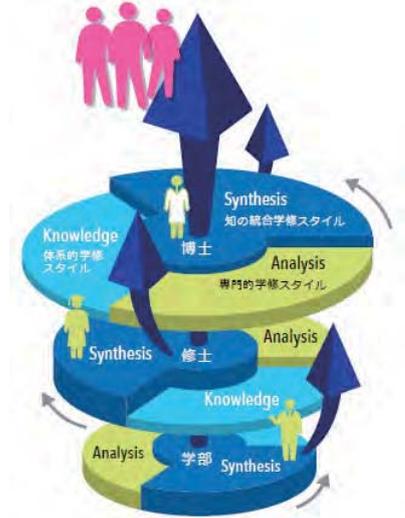
専門分野での知識を体系的に学ぶ  
専門性を深める学修に加え、専門性を広げる学修も重視する

### Analysis 専門的学修スタイル

体系的学修で獲得した専門性を更に深め、自分のものとするための研究・研究体験に取り組む

### Synthesis 知の統合学修スタイル

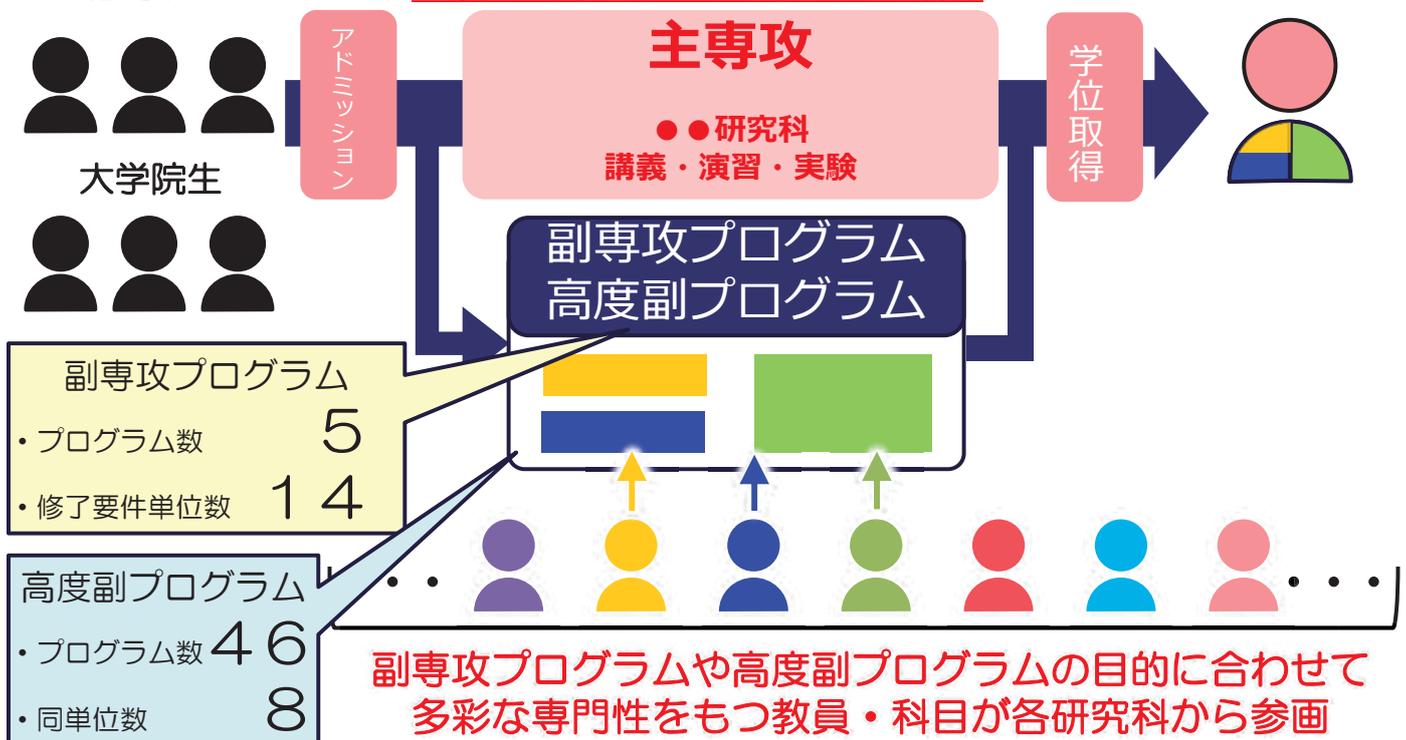
体得した専門性を「社会的価値の創造」につなげるため、異なる専門分野の学修や知の統合を行うことで、新たな価値観・アイデアの創造、表現方法やコミュニケーション力の向上を図る



- 副専攻・副プログラムの提供、新しい学位プログラムの開発
- マルチリンガルエキスパート養成プログラムの開始

## 副専攻・副プログラム

自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を、体系的に学ぶプログラム。  
(副専攻プログラムは、主専攻に準ずるレベルであることが特徴)



# 副専攻・副プログラム

自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を、体系的に学ぶプログラム。  
(副専攻プログラムは、主専攻に準ずるレベルであることが特徴)



大阪大学が有する豊富なプログラム群の再構築・体系化を行い、  
「**知の統合学修**」のための新たなプログラムを構築



# マルチリンガルエキスパート養成プログラム

国立大学で唯一25の言語専攻を擁する高度な言語教育環境を活かし、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラム

【マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラム】(平成27年度実施予定)

⇒ 文系各学部が外国語学部の学生に対して、「文学」、「法学」、「経済学」、「人間科学」等の副専攻プログラムを提供



(平成28年度以降、言語文化研究科(言語社会専攻)学生への、文系各研究科によるプログラム提供、及び文系各学部・研究科の学生への、外国語学部、言語文化研究科(言語社会専攻)によるプログラム提供を実施予定)

## 「世界適塾大学院」構想の始動

### 世界適塾大学院 構想 (平成29年度設置予定)

- 未来戦略機構等を介し形成された新しい異分野統合・新学術領域を基盤
- 次世代グローバル大学院組織



学問の地平とグローバルな環境の最先端を行くスーパー博士プログラム

⇒ 少数精鋭による切磋琢磨の下、

**世界をリードする卓越した次世代研究者の育成を目指す**

10月1日付けで、「新大学院設置担当副学長」として  
北岡良雄 基礎工学研究科・特別教授を指名。

「新研究科事前検討WG」を設置し、検討を開始。

今後、「新研究科設置検討委員会」(仮称)を設置予定。

1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究

2. 次世代型人材育成に向けた教育プログラムの構築

3. 国際標準の教育の保証、学習環境の向上

4. 大学改革の推進体制の強化

## 3. 国際標準の教育の保証、学習環境の向上

### 学事暦の改革

平成29年度よりクォーター制（3学期制）を導入

### 新しいTA制度の開始

平成27年度よりティーチングフェロー（TF）の新設など、より多くの大学院生がTAを通じた能力の向上や適切なキャリアを形成

### 国際通用性のある講義の充実

edX提供のMOOCを介した国際水準の講義の導入や、FDプログラムの強化、Frontierlab@OsakaU等プログラムの充実

### 国際標準の教学マネジメントの導入

授業の難易度・順次制を踏まえた体系的な科目ナンバリングの実施等（平成33年までに完成）

### 教員の多様化

人事・給与制度の弾力化（特別教授、クロス・アポイントメント・年俸制の対象拡大）

### 学生の多様化

新AO入試の導入（国際バカロレア、SGH等の多様な人材の受入）

### 留学・語学教育環境等の充実

TOEFLスコアの全学共通スタンダードの制定、実践英語力を強化する短期プログラムやサマープログラムの増加

## 学事暦の改革

平成29年度より**クォーター制（3学期制）**を導入します

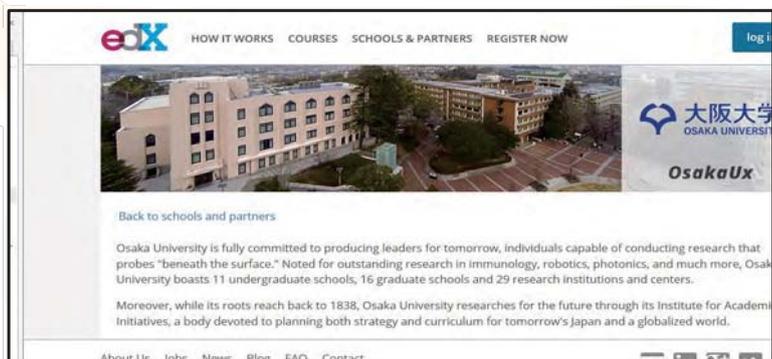


- 海外サマースクール等へ学生派遣
- 短期留学生向け阪大サマースクール開催
- 教員の研究時間確保

第1学期	4-6月
夏休み	7-8月
第2学期	9-11月
第3学期	12-2月
春休み	3月

# 国際標準に対応した講義の充実化

- ①大阪大学が得意とする研究テーマを題材に取り入れた  
大学教養教育レベルのコースを全世界に向けて配信します。



「edX」：  
マサチューセッツ工科大学と  
ハーバード大学が共同で設立した  
MOOC (Massively Open  
Online Course) 配信の非営利コ  
ンソーシアム。  
世界から32の著名大学が設立大  
学として参加。

- ◆ 阪大ブランドを確立すると同時に優秀な留学生の獲得につなげる
- ◆ 学内の教育のグローバル化に活用し、英語による講義や反転授業の実施、  
多人数向け講義における学習効果の向上を図る

# 国際標準に対応した講義の充実化

- ①大阪大学が得意とする研究テーマを題材に取り入れた  
大学教養教育レベルのコースを全世界に向けて配信します。



他にも…

- ② 英語での高度な授業の実施を希望する教員への支援
- ③ 学習者中心のアプローチによるコース設計や能動的学習を促進する  
講義形態の学内定着等を教育学習支援センター (TLSC) が  
中心となり強化し、国際的水準での講義形態の学内普及を図る

- ◆ 学内の教育のグローバル化に活用し、英語による講義や反転授業の実施、  
多人数向け講義における学習効果の向上を図る

# 教員の多様化

【趣旨】 教員の給与制度の選択肢を増やすことにより、教員の採用について各部局の自由度を拡げ

- 教員組織の充実を図る。
- 教員へのインセンティブを高め、優れた人材を確保する。
- 教育研究活動の活性化に有効活用する。

## 1. 大阪大学特別教授制度

- ・優れた業績をあげた現役教授に“特別教授”の称号を付与し、**300万円から600万円の特別手当を給付**
- ・今後も未来戦略を推進していく上で大阪大学の顔として、先導的役割を担っていただく
- ・今後は**国際的に活躍する研究者**を招へいする制度としても活用

現在、**13名**を特別教授として任命

## 2. クロス・アポイントメント制度

- ・他の大学・研究機関等（海外を含む）との協定に基づき、本学及び相手方機関の**双方に身分を有し**、双方の業務を行うもの
- ・本学教員あるいは相手方機関の研究者等が現職を離れることなく、双方の身分を持ちつつ、**柔軟に教育研究活動に従事**することができる

最初の事例として、**核物理研究センターと理化学研究所**（仁科加速器研究センター）間の協定を締結(H26.4~)

## 3. 評価連動型年俸制の導入

- ・本学のグローバル化を一層促進するため、**世界的に活躍する外国人研究員を招へい**する制度として、平成26年1月より導入
- ・年俸額は、基本給部分と賞与部分（部局長等による教育・研究等の業績評価を考慮し決定する**業績変動賞与**）を支給

最初の事例として、**ロシア科学アカデミー会員**を教授として採用(H26.4~)

# 学生の多様化

～優秀かつ多様な人材の獲得を目指す～

## ● 新AO入試の全学的導入

後期入試日程を見直しつつ、平成29年度から入学定員の10%に導入

- ⇒ **国際バカロレア（IB）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）**等の多様な人材や、高いTOEFLスコアの保持者を、積極的に受け入れ
- ⇒ グローバルアドミッションズオフィス（GAO）の設置と、アドミッションオフィサーの配置・育成を推進し、AO入試制度の充実に努める

## ● 新たな私費外国人留学生向け入試の開始

日本語能力の育成を計画的に盛り込んだ新たな入試制度を、平成26年度から開始

## ● 短期留学生数の拡大

カリフォルニア大学の協力を得て実施する**サマープログラム**の開発や、大学協定数の増加を通じて、優秀な外国人学生の受け入れ増を目指す

# 世界適塾構想推進のための 4つの改革

1. 世界に展開する大阪大学の教育・研究

2. 次世代型人材育成に向けた教育プログラムの構築

3. 国際標準の教育の保証、学習環境の向上

4. 大学改革の推進体制の強化

## 4. 大学改革の推進体制の強化

### 大阪大学 未来戦略機構

(平成23年12月設置)

学内の多様な分野の知的資源を戦略的・超領域的につなぎ、「学問の新基軸」の形成につながるインキュベーション機能を持つ組織  
教育研究の将来の可能性を分析する (URA, IR) 視点を持ちながら、部局を超えた新たな学術領域を、大阪大学が先陣を切って形成する



### 世界適塾 大学院構想

平成29年度設置予定

未来戦略機構等を介し形成された新しい異分野統合・新学術領域の研究分野を基盤とした次世代グローバル大学院組織「世界適塾大学院」を設置  
大阪大学の教育研究とマネジメントの特色を最大限発揮させ、全学的な大学院システム改革を牽引する

Platform of Synthesis

— 知の統合学修プラットフォーム —

### 全学学修イノベーション機構

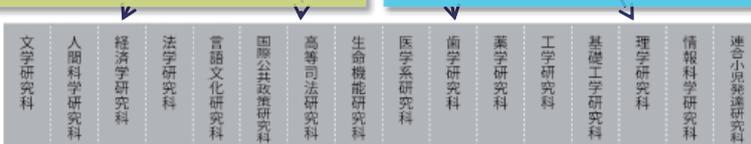
(仮称) 平成26年度設置予定

教育プログラムや学修活動に係る抜本的な改革を企画立案し実行する新たな教学マネジメントの拠点  
大阪大学がすでに有している部局の枠を超えた教育資源 (副専攻・副プログラム等) を生かし、「知の統合」に係る学修を多くの学生に効果的に提供する

### グローバル・イニシアティブ機構

(仮称) 平成26年度設置予定

大学全体の世界展開力を加速するため、研究交流学生交流、海外調査・インターン、広報、産学連携等に係る既存組織の機能を整理統合  
総合大学として一丸となつて、教育研究の国際交流やブランディング戦略の展開等を戦略的に推進する



# 「未来へつなぐ」 大阪大学未来基金

## 創立100周年 世界トップ10 未来基金100億円

健康で快適な  
グローバルキャンパスの実現

学生支援

国際交流

世界に通用する人を育む

○学部生に対する奨学金支給

### 大阪大学未来基金 創立100周年ゆめ募金

○学生の海外派遣のサポート  
○留学生への奨学金支給

本質を究め未来を創造する  
研究の推進

研究者支援

社会貢献

大学と人と地域の交流促進

○若手研究者、大学院生への支援

○研究成果公開活動の支援  
○相互市民教育の展開

## University Identity ～大阪大学の広報戦略～



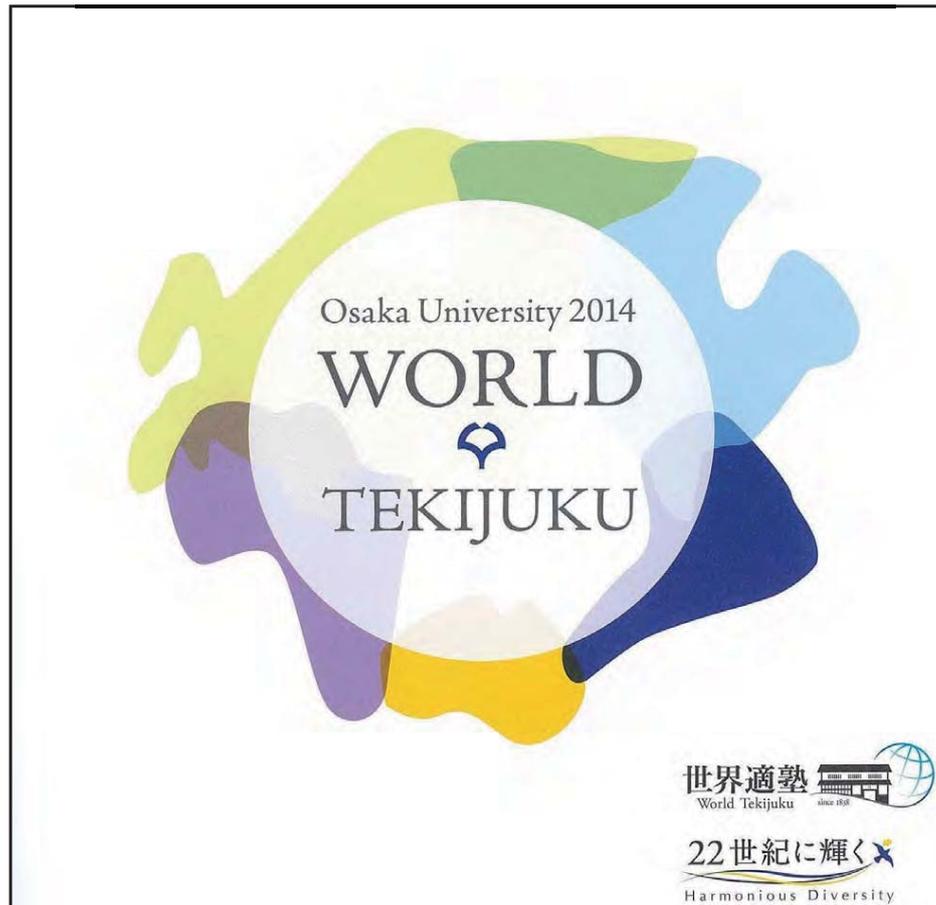
◆大阪大学・学章（創立60周年を記念して平成3年に制定）

制作者：田中一光（日本を代表するグラフィックデザイナー）

制作意図：60年の伝統を持つ銀杏をモチーフに、3つの円弧による造型の中に「OSAKA」のOをしのばせ、歴史ある大学としての知性と格調を失うことなく、「大学、学生、市民」へと連なる親近感を表現

各種ロゴマーク	名刺テンプレート	PPTテンプレート
<p>大阪大学 OSAKA UNIVERSITY</p> <p>22世紀に輝く Harmonious Diversity</p>	<p>大阪大学 OSAKA UNIVERSITY</p> <p>大阪大学 部長 阪大太郎</p> <p>Taro HANDAI OSAKA UNIVERSITY Director</p>	

これらのロゴマーク及びテンプレートは **OWL** からダウンロードできます  
<https://owl.osaka-u.ac.jp>



今後、大阪大学は「**世界適塾**」**構想**に基づき  
様々な大学改革・教育改革を推進します。

2024年には、QS世界大学ランキング30位以内に、  
2031年には10位に入るような  
**世界トップクラスの研究型総合大学**を目指すとともに  
グローバル社会に貢献し、  
文明の進歩と豊かな暮らしに貢献する  
**「学問による調和ある多様性の創造」**を推進していきます。

全学の教職員、学生の皆さま、頑張りましょう！

夢は叶えるためにある

22世紀に輝く

調和ある多様性の創造



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY

「適塾」から世界適塾へ  
学問による「調和ある多様性の創造」